

# 【乳汁検査まとめ】

## はじめに

先月に引き続き、2023年1～6月において弊社にて実施した乳汁検査の結果をお伝えしたいと思います。

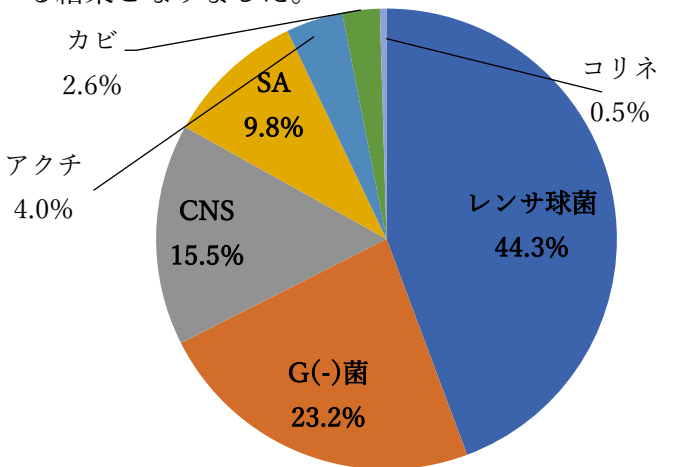
検査頭数は731頭、検査分房数は1322分房で、菌の生えた分房数は715分房、菌の検出されなかった分房数は607分房でした（それぞれ重複を含む）。

## 略語・薬品名対応表

略語	注射薬	軟膏
AM	アンピシリン	—
Cz	セファゾリン注	セファメジン・セファゾリン
K	カナマイシン	タイニーPK
ERFX	バイトリル10%	—
ST	トリオプリン	—
T	OTC注	OTC軟膏

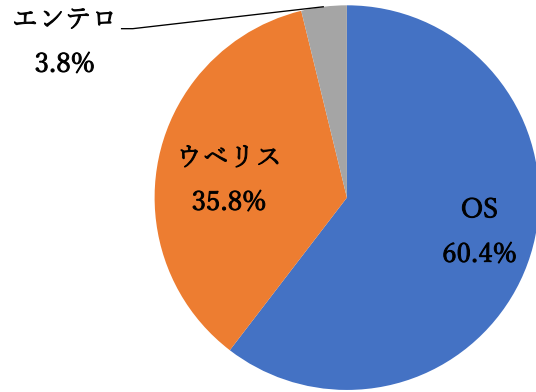
## 原因菌種割合

菌が検出された検体の中での雑菌、その他の細菌を除く原因菌種割合を以下に示します。最多はレンサ球菌（※1）で、2番目に多かったのはG(-)菌（※2）でした。次いでCNS、SAと続きます。レンサ球菌、G(-)菌、CNS、SAで全体の約90%を占める結果となりました。



グラフ1 原因菌種割合

- ※1 レンサ球菌にはOS、ウベリス、エンテロコッカスを含む
- ※2 G(-)菌には大腸菌、その他の大腸菌群、クレブシエラ、緑膿菌を含む
- ※ アルカノバクテリウムをアクチ、コリネバクテリウムをコリネ、酵母様真菌をカビと表記

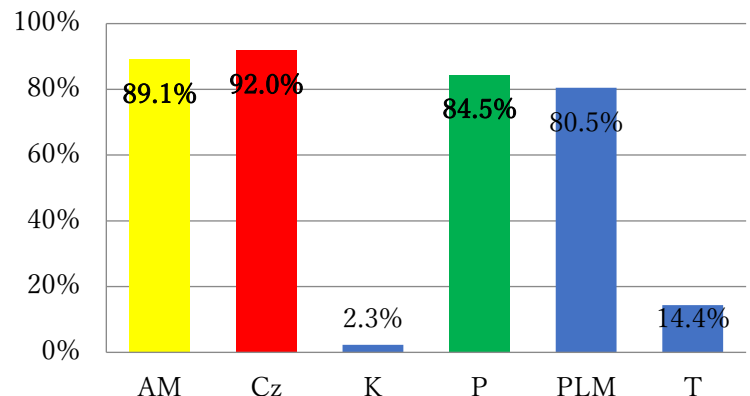


グラフ2 レンサ球菌割合

グラフ1にてレンサ球菌としたものの内訳です。レンサ球菌の発生分房数は288でした。OSが174分房で、割合は60.4%となり最多でした。ウベリスは103分房で、割合は35.8%でした。エンテロコッカスは11分房で、割合は3.8%でした。

## G(+ )菌感受性割合

OS (174)



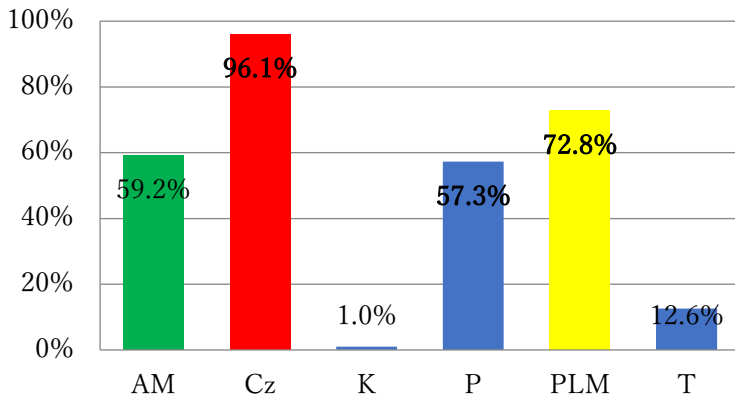
グラフ3 OS 感受性割合



Total Herd Management Service

感受性割合の上位3つの薬剤は Cz（セファメジン・セファゾリン）、P（ペニシリン・ニューサルマイ）、AM（アンピシリン Na）で、PLM（ピルスー）も感受性割合 80%を超える結果となりました。

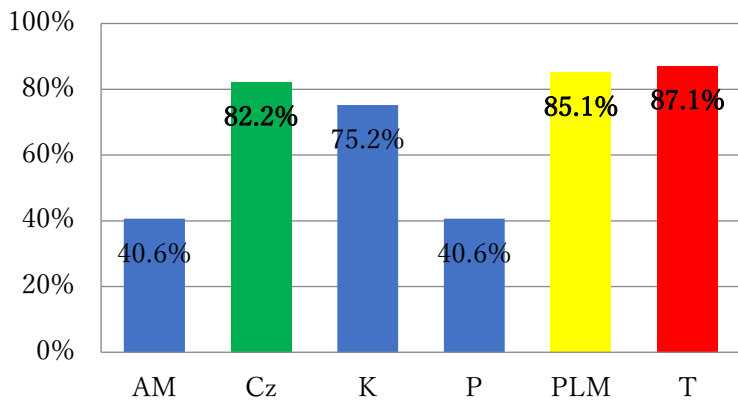
ウベリス (103)



グラフ4 ウベリス感受性割合

Cz（セファメジン・セファゾリン）は95%を超えています。PLM（ピルスー）で72.8%という結果となりました。これ以外の薬剤の感受性は6割以下で、T（OTC注・OTC軟膏）、K（カナマイシン・タイニーPK）はOSと同程度です。

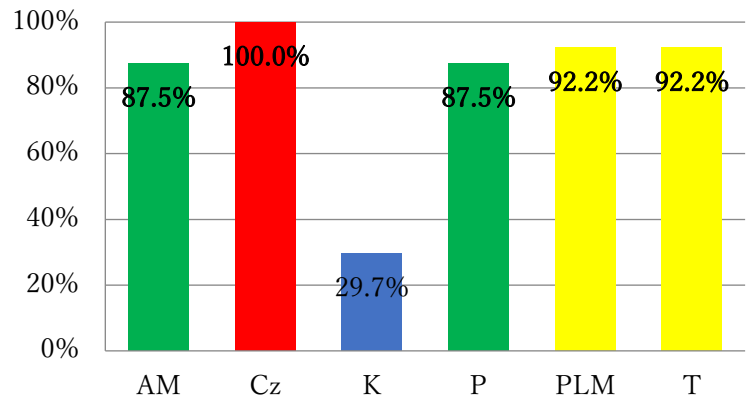
CNS (101)



グラフ5 CNS感受性割合

感受性割合の上位3つの薬剤は T（OTC注・OTC軟膏）、PLM（ピルスー）、Cz（セファメジン・セファゾリン）となりました。この3薬品の感受性割合は80%を超える結果となりました。

SA (64)



グラフ6 SA感受性割合

SAにおいては上位3つの感受性薬剤は Cz（セファメジン・セファゾリン）、PLM（ピルスー）、T（OTC注・OTC軟膏）、AM（アンピシリン Na）、P（ペニシリン・ニューサルマイ）という結果となりました。感受性割合はどれも85%を超えました。

### 最後に

今回紹介した G (+) 菌においては CNS 以外で Cz（セファメジン・セファゾリン）が90%を超える結果となりました。今回紹介しなかったアルカノバクテリウム（アクチ、化膿菌）、コリネバクテリウムにおいても同様に Cz（セファメジン・セファゾリン）が90%を超える結果となりました。

K（カナマイシン・タイニーPK）は G (-) 菌に対しては感受性割合が高いですが、CNS 以外の G (+) 菌では K（カナマイシン・タイニーPK）の感受性割合が低い結果となりました。G (-) 菌でないことが確定したら、Cz（セファメジン・セファゾリン）は第一選択薬と考えても問題ない感受性割合だと考えます。

高温が続いていますので、菌種問わず乳房炎が増加しています。先月お伝えした通り、菌なしの割合も決して低くはありません。乳房炎が増加しているので、適切な治療を心がけましょう。中々治癒しない場合は速やかに乳汁検査を実施又は依頼することをお勧めします。

富田大祐



Total Herd Management Service